

テーマ：「認知症に対する鍼灸治療」

講師： 学校法人後藤学園中医学研究所所長 兵頭 明

【抄録】

2025年には認知症の人が700万人に達し、高齢者医療費も増大し21兆円になるだろうと言われています。国は平成27年1月27日に「認知症施策推進総合戦略」（新オレンジプラン）を打ち出しました。まさにこのような時代的ニーズ、社会的ニーズに応えるためにも、私達は今こそ長きにわたり東洋医学が実践してきた統一体観（全体観）および予防医学の観点を重視し、多職種連携の中で高齢者や認知症の人に対して全人的・総合的な角度から継続的な治療とサポートが行える鍼灸専門人材の育成が急務であると考えられます。

一、認知症に対する東洋医学の可能性を探った認知症国際フォーラム

認知症に対する東洋医学の可能性を探るため、平成21年10月31日に文部科学省戦略的基盤研究・社会連携研究推進事業の一端として認知症国際フォーラム「認知症に東洋医学が挑む」が神奈川県川崎市で開催されました。私もパネリストとして発表いたしました。天津中医薬大学・第1付属病院の韓景献院長により、アルツハイマー型認知症と血管性認知症435症例の患者を対象とした鍼灸治療によって、MMSE（認知機能検査）スコアの改善、日常生活動作（ADL）の改善がはかられたという研究成果を報告されました。

二、医療・介護連携による認知症専門鍼灸師の育成事業の推進

認知症国際フォーラムの主催機関の1つである（一社）老人病研究会は韓景献院長の基礎研究・臨床研究の成果を踏まえ、平成22年10月から平成29年11月までに医療・介護・鍼灸の3分野連携による認知症Gold-QPD（ゴールド・キューピッド）育成講座を合計10回開催し、現在176名の認知症専門鍼灸師が在宅・高齢者入居施設・通所介護施設、グループホーム、鍼灸治療院等にて多くの認知症の方の治療とサポートを行っています。

三、文部科学省委託事業の認定を受け、認知症対応型モデル教材を制作

学校法人後藤学園中医学研究所は、「認知症の人に寄り添う新たな人的資源となる中核的鍼灸専門人材の育成」を目的として、平成26年度、27年度に文部科学省委託事業「成長分野等における中核的専門人材養成等の戦略的推進事業」の認定を受け、『認知症の人およびそのご家族を支えるための西洋医学系・介護福祉系・鍼灸医学系3分野連携型モデル教材』及びそのDVD教材の開発を行いました。本教材シリーズは、後藤学園中医学研究所ホームページ「成長分野等における中核的専門人材育成の戦略的推進事業」のコーナーにおいて、すべて無料でダウンロード、視聴ができるようになっております。

四、多職種連携をベースとした認知症に対する鍼灸治療の成果と今後の可能性

ここでは、前述の認知症専門鍼灸師が家族連携、施設連携をベースに取り組んできた在宅、高齢者入居施設、通所介護施設、グループホームなどでの取り組み成果の一部、および認知症の人を治療する際に役に立つ「認知症鍼灸施術サポートガイド」についてご紹介をさせていただき、今後の様々な連携の中での認知症の人に対する鍼灸治療の可能性を一緒に探ってまいりたいと思っております。